

〔新刊紹介〕

『青森県史 資料編 中世1 南部氏関係資料』

伊藤 清郎

『青森県史資料編』中世の最初の刊行巻として、中世南部氏とその家中に伝えられた資料を可能な限り収録した資料集である。さらに中世文書に限らず「その家の中世の歴史」を知りうるものであれば近世の文書まで採録してある。

構成は、凡例、第Ⅰ部八戸（遠野）南部氏関係資料、第Ⅱ部三戸（盛岡）南部氏関係資料、第Ⅲ部近世編纂物・記録、付録花押・印章等一覧、編年目録からなる。文書・記録類にはすべて統一番号が付され編年目録を利用する際に便利になっている。各資料では、原本調査をしたものには法量・紙質・料紙形状・封式・表装などを**本紙**として記載し、原本調査のできなかったものについては「註」に従来の調査で得た法量などを記し、厳密に区分している。本文中には人名・地名・年次などを記した傍註が付され、末尾に「註」として説明・関連文書などを記載している。また「文化庁目録」「写真帳」「影写本」「郷土史料目録」等との対照番号も付してあるので利用しやすい。口絵も、八戸（遠野）南部家文書の世界、三戸南部氏の発展、由緒・家伝記と文書集・歴史書の編纂、と大きく三分したうえで、さらに小区分して写真を掲載している。実に細かい配慮をしている。

当初、原本にあたっての調査を目指していたものの実現できなかった

文書も多々あるらしく、資料編纂の厳しさがうかがえる。また文書の写真は口絵と本文中に掲載されている。写真部分を独立させて別冊にするという編集も考えられようが、中世資料編纂の難しさを考えると、それは無理な要求というものであろう。

かつて南部家に関する資料をこれだけ網羅し一冊にまとめた資料集はあったであろうか。編纂諸氏の長期にわたる努力に敬意を表したい。北奥羽中世史研究の基本資料、それがこの資料編の性格と特徴を如実にいあらわしているといえよう。

解題にも注目したい。第Ⅰ部では、八戸南部氏・三戸南部氏・波木井氏との関係、八戸南部氏と三戸南部氏の嫡宗争い、南部氏と津軽安藤氏との抗争、曾我・小川・下国安藤各氏等他家の文書が八戸南部氏に編入された経過、八戸南部家文書の調査の経緯や資料集の刊行編纂の経過を考察し、さらに八戸南部家の一族新田家・小新田家・中館家等に伝来する文書にもふれつつ嫡宗家の動向を追求している。第Ⅱ部では、三戸南部氏と盛岡南部氏との関連、家臣の野田家・五戸木村家・福土家・種市家・四戸家・瀬川家や雄山寺等の由来・系譜や所蔵文書の特徴について考察する。第Ⅲ部では、盛岡藩最古の古文書集である『宝翰類聚』をはじめ盛岡南部家の文書・記録集、北信愛の功績覚え書き、藩成立に関する覚え書き・草創記、軍記などに関して作成経過や資料的価値等について考察している。なお『宝翰類聚』を完全に採録したのは今回が初めてである。

このように解題とはいいながら、南部家に関する斬新な問題提起や北奥羽中世史の新たな研究という内容になっており、注目すべき成果とい

えよう。

ただ文書の中には現在所在不明になっているものもあるようだ。よくあることとはいえ、心痛む事実でもある。また編年目録に西暦が付されてはいるものの、本編のどこか一角にでも西暦が入っているととても便利だったのではなからうか。

A4判、全体で八〇〇頁近い分量の資料編で、しかも箱・表紙のモスグリーンは青森を象徴する色なのであるか、さわやかで、かつ深みのある色である。今後、大いに活用される資料集となろう。続く中世資料編の刊行を期待したい。

(A4判、本文七六〇頁、青森県、二〇〇四年三月刊)

(いとう・きよお 山形大学教育学部教授)